

筑波研究学園都市研究所・大学関係 9 条の会

9 条の会 ニュース

NO. 7 2006. 7

名称：筑波研究学園都市研究所・大学関係 9 条の会

郵便振替口座番号：00120-4-501101

発行責任者：茅野徳治：TEL / FAX 029-857-6593

〒 305-0023 つくば市上の室 1829-1

－イランに対して戦術目的でも核兵器を使うな－

米国物理学研究者の請願

2006年4月17日

ジョージ W. ブッシュ 閣下
合衆国大統領
1600 ペンシルバニア 通り
ワシントン、DC 20500

親愛なる大統領殿

最近ニューオーカーとワシントンポストは、ペンタゴンの立案者とホワイトハウスがイランに対して戦術的核兵器使用を積極的に考慮していると報じました。核兵器を実現させた専門家として、我々はアメリカにとっても世界にとっても容易ならぬ結末となるに違いないこのような行動を控えるよう政府に強く勧告します。

1800人の我々物理学者の同僚は、イランのような事態に核兵器を使う米国の新しい核兵器政策に反対する請願に結集しました。核安全保障局長官(National Nuclear Security Administration director) リントン ブルックスの言によれば、これらの政策は“過去からの根本的な離脱”を表しています。実際第二次大戦後、米国の政策は核兵器を“最後の手段の武器”、即ち国または連合して居る国の生き残りがかかっている時か、すくなくとも特別な軍事的必要な場合のものと考えてきました。これに代わって、新しい米国核兵器政策は、核兵器を使用する場合の制限基準を大幅に引き下げており、このことは通常兵器で破壊するには“深すぎる”地下施設を破壊する為に、あたかも核兵器を工具箱の中のもう一つの工具のように考えている事実によって明らかに証明されています。これは核

兵器の正当化に対する大きなそして危険な変更です。ノーベル賞を受賞した故ジョセフ ロートブラットは、核戦争を防ぐ努力の中で“この政策の危険性は強調され過ぎることはない”と言っています。

核兵器は大量破壊兵器の中で独特のもので、それは原子の中のほんの小さな核に蓄積されている膨大なエネルギー、即ち原子の残りの部分に蓄積されるエネルギーの百万倍を解き放ちます。核爆発は膨大な爆風のエネルギーと熱放射と、人体への即時と晩発の致死的な影響を持つ放射能を放出します。廣島の爆発では、100,000人以上が亡くなりました。そして今日の武器としての核兵器の総量は廣島型爆弾の200,000倍以上の威力を持っています。

非核の敵対者に核兵器の先制攻撃をすること、または核兵器を使うと脅迫することでさえ、核拡散防止条約に加盟している182ヶ国に、条約を信頼していても核を持つ国からの核攻撃を防ぐ役にはたたないと知らせることになります。かくして多くの国は条約を廃棄することになり、現在既にほころびを見せている核拡散防止体制が一層損なわれ、米国と世界の安全保障に破滅的な結果をもたらすでしょう。

小さい“戦術的”核兵器と大きな核兵器の間にも、施設を標的とする核兵器と軍団や都市を標的とする核兵器の間にも、明確な境界は存在しません。核兵器は60年間使用されませんでした。いったん米国が再び核兵器を使用したならば、他の国も使用する可能性を高めるでしょう。世界ではもっと多くの国が核兵器を持ち、そして

もはや核兵器を使用することに対する“タブー”が無くなって、局地紛争が我々の文明を破壊する可能性のある世界的な核戦争に発展す恐れが非常に大きくなることでしょう。

最大の軍事力を持つ国としての米国にとって、最後には地球上の生命が広範囲に破壊されることになりうる行動の道筋を選択肢にいれることは、全く無責任です。我々は政府に現在も将来も全ての非核の敵対者に核兵器使用の選択はしないことを公に宣言すること、および米国民にこの問題に関して彼らが声をあげる様強く勧告します。

- ・ P.W. アンダーソン (ノーベル物理学賞)
- ・ M.E. フィッシャー (ウォルフ賞)
- ・ D.J. グロス (ノーベル物理学賞)
- ・ J.E. ヒルシュ (物理学教授)
- ・ L.P. カダノフ (米国科学賞、物理部門)
- ・ J. レボウィツ (モルツマン賞)
- ・ A.J. レゲット (ノーベル物理学賞)
- ・ E. メルツバッチャー
(米国物理学会会長 1990)
- ・ D.D. オシャロフ (ノーベル物理学賞)
- ・ A. セスラー (米国物理学会会長 1998)
- ・ G. トリリング (米国物理学会会長 2001)
- ・ F. ウィルツェック (ノーベル物理学賞)
- ・ E. ウイッテン (フィールズ賞)

請願の経緯

伝えられる米国政府の核兵器使用に関する新しい政策に反対を表明し、且つ関係機関がこの事態に対処し、米国議会がこの問題で公聴会を行い、そして報道機関と国民がこの政策を詳細に検討し声を挙げることを願い、米国カリフォルニア大サンディエゴ校物理学部メンバーが発議して、昨年9月に核兵器政策に関する請願書への署名運動“Petition by physicists on nuclear weapons policy, September 2005”が始められた。署名運動は今も継続している。詳細は<http://physics.ucsd.edu/petition/>をご参照下さい。

福本氏の問い合わせに対する

A. セスラーのメール

この請願書は我々の中の数人がホワイトハウスに手渡ししようとして受け取られなかった。われわれはこれを報道機関に発表し、多くの新聞

に知らせるようにした。これを取り上げたのは、International Herald Tribuneだけのである。米国物理学会は声明を採用し、1800人が請願書に署名した。

注) 本文は、米国から広島大学の研究者に送られてきて、そこから高エネルギー加速器研究機構(KEK)に転送されてきました。そのメールを当会の代表世話人福本貞義氏が入手されて、高松邦夫氏(世話人)のコメントも参考にして日本語に訳したものです。

追悼

本会が4月23日に催した集いで講演された河井智康氏は、5月30日に逝去されました。ここに哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

「筑波の研究所・大学9条の会」第2回講演と対話の集い

つくばでの 研究所平和宣言運動(1987年)を考える

日時：2006年8月20日(日)
午後2時～4時30分

会場：手代木公民館 2階会議室

・電総研平和宣言とその波及効果

報告者：岡田安正(元電子技術総合研究所)

・農林研究機関での平和宣言運動

報告者：山口雪雄(元蚕糸・昆虫農業技術研究所)

・気象研究所での平和宣言

報告者：中沢哲夫(気象研究所)

事務局だより

筑波研究学園都市研究所・大学関係9条の会のホームページができました。http://peace.arrow.jp/tsc/i_home.php をご覧ください

「会」へのお問い合わせは

・ 305-0023 つくば市上の室1829-1
茅野徳治

電話・Fax：029-857-6593

・ e-mail :

岡田安正 yaokada@mti.biglobe.ne.jp

堀田博之 zkodaly@nifty.com